

(韓国生徒代表) 挨拶の言葉

みなさま、おはようございます。私はこのたびの「津賀ダム平和記念碑」建立十週年を記念する式典で韓国の生徒を代表してこの場に立ちました韓国釜慶高校の1年生、コンソヒョンと申します。どうぞ、よろしくお願いします。^^

ちょうど10年前、ここで大きな1歩が踏み出されていたと聞いています。それは、韓国と日本の平和と共生のために先生方と生徒たち、そして、地元の方々が力を合わせ、植民地時代に連れてこられ強制労働に動員された韓国人犠牲者の慰霊碑をつくられたことで、長いあいだ途切れていた交際の脈を繋いでくださったことです。

この一連の過程を石に刻んで記念してこられ、今日、その10周年を迎える席にお供できましたこと、まことに光栄と思います。私たちは今日この場で、世代を越えて受け継がれるこの事業の新しい歴史の1ページを書いていることでしょう。新入りの私たちもこれまでの実績を守る一方、新たなチャレンジにも力を入れていきたいと覚悟を改めます。

私は学校で「社会的責任と企業」というテーマを中心に扱う部活を行なっています。今の社会でのけ者にされたり疎外されてきた弱い立場にいる方々について、一緒に考えながらこの問題に対してより多くの関心を持つように促すためです。

本日、私たちが集まった意味もまた記憶から薄れていく「弱い存在」たちを偲んで、心に蘇らせるためではないでしょうか。巨大権力の横暴から逃れることができなくて他国で命を落とし、戦後に置いても有耶無耶とされてきたあの「弱い存在」の方々。そして、今でも日本と南太平洋のどこかで招魂を待っている筈の「弱い存在」の方々。実に胸が痛んできます。平和を築く始まりは、このような「弱い存在」を胸に秘めて、二度と同じような過ちが繰り返されないよう努めるところにあると私は思います。

私はここに来る前から、最近、韓国と日本の間の政治・経済をめぐる様々な不安の声を耳にしています。私が日本に行くという話を聞いただけで不安を示す人さえいました。平和と共生のため汗を流している私たちとは裏腹に、権力を振るう政治家たちは、またもや泥沼の戦いを繰り広げています。国民をして敵対の気持さえ強いるような嘆かわしい現実を目の前にしている今この頃です。

いくら時間が経っても平和を脅かす連中の手口にはあまり変わりがないような気がします。私たちは歴史を共有して平和を守る活動を継続していかなければなりません。そうして、平和を脅かしている昨今の画策は決して成功できるものではないということを彼らをして思い知らせなければなりません。

ん。仮に今現在は力及ばずとも、平和と共生の波がこの世にあふれるように、草の根の民間外交の輪を広げていかなければなりません。

このような意味からここ津賀ダムは過去の傷痕を癒して、平和と共生の未来へと導く橋渡しになっていると思います。私たちが力を合わせればその動機が善良である以上、どんな不正義の威勢よりも強いパワーが持てると私は強く信じています。また、10年後100年後の後輩たちにもこの事業が受け継がれ、真の理解と協力で両国の未来が確実な平和と共生に定着することを祈ります。

生きている歴史の現場に志を植え、これまで尽くしてくださった先生方と先輩たち、そして、この事業の一部始終をバックアップしてくださった地域の皆様に、この場を借りて尊敬と感謝のお礼を申し上げます。最後に、津賀ダム建設を前後して亡くなられた労働者の方々のお安らかな永眠を祈り、韓・日両国の更なる平和と発展を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。